

夏学タイムズ

女子中高生夏の学校2009

いよいよ開幕!

今年も「女子中高生夏の学校(以下「夏学」)がはじまる。今年で五回目となった夏学。昨年度からは中学三年生もいよいよ参加が可能となり、記念すべき第五回の今回は保護者・中高教員向けのプログラムも加わり、ますます厚みを増している。参加者も北海道から九州まで、さまざまな地域から集まり、応募者数は定員を大きく超えた。夏学に対する期待感を垣間見ることが出来る。

夏の学校って?

夏の学校は毎年八月に、埼玉県嵐山町の「国立女性教育会館」で開催される三日間だけの学校です。北海道から九州まで、進路選択に悩む、あるいはサイエンスに興味を持つ百人以上の女子中高生が埼玉・嵐山にある「国立女性教育会館」に集い、さまざまなプログラムを通して自身のライフデザインを感じ、自然と世界観を広げることが出来るのです。プログラム

の内容も年々進化発展しています。「学校」と言っても、教科書を広げて全員が同じことを学ぶのではありません。いわゆる「お勉強」はしばらくお別れ。多くの知的好奇心をくすぐるようなプログラムを通して参加者が自らの手で自分の中にある未知の可能性や興味を能動的に引き出していくのです。そのお手伝いをするのが現在大学で学ぶ「学生TA(ティーチングアシスタント)」の女子大生であり、



▲休憩時間のおしゃべりも貴重な時間



▲初対面でも活発に意思疎通をし、すぐに打ち解けてしまいます

〈お問い合わせ〉

国立女性教育会館
〒355-0292
埼玉県比企郡嵐山町
菅谷728
TEL0493-62-6724
6725
FAX0493-62-6720
<http://www.nwec.jp/>

〈夏学HP〉

<http://www.natsugaku.com>



理工系をはじめとする先端的な研究の第一線で活躍する研究者の先生たちです。夏学は、このような女子大生や研究者とじっくりと話をし、身近に感じることが出来るビッグチャンスなのです。そしてその経験は、皆さんがこれから幾度となく出会う人生の岐路におけるマイルストーンとなることでしょう。

どんな三日間が待っているの?

今日八月一三日から一五日までの三日間、わくわくするような企画が目白押しです。企業で働く研究者や技術者はもちろん、大学で楽しい理系ライフを送っている女子学生の講演を聴くことも出来ます。テーマは研究の第一線で活躍することの楽しさややりがいのほか、女性として結婚や出産、育児といった時期をどのように迎えたのかといった、皆さんにとっても良きロールモデルとなるものもあることでしょう。お話を聞いていて疑問に思ったことなどはぜひ講師の方に質問をしてみてください。あるいは講演をもとに、いろいろな先生たちとディスカッションをしてみるのも楽しいでしょう。夏学に関わるスタッフは気さくな方ばかり。遠慮はいりませんよ。二日目にはサイエンスエクスポージャー(科学探検隊)があります。さまざまなサイエンスの分野に関

わる実験を体験したり、ポスターを見て説明を聞いてみたり、あるいはキャリアデザインに関する方談に乗っていただいたり。楽しみ方はあなた次第です。その他、学生企画として夜の楽しみイベント「サイエンスバトル」、最終日には「才媛双六」サイエンスすごろく」などの企画があります。どのチームも優勝を目指して一致団結し、白熱する間の参加者の皆さんにとっても楽しめる企画をスタッフが準備しています。どうぞ、お楽しみに!

夏学は三日間で終わりのなの?

夏の学校という「場所」は三日間で終了して、皆さんは各自の生活へと戻っていきませんが、夏学スピリットは持ち続けてもらいたいと思います。この三日間の夏学で経験したこと、学んだこと、感じたことを自分の中学や高校へ持って帰ってください。三日間の夏学全日程を修了すると、皆さんは「サイエンスアンバサダー(科学親善大使)」に任命されます。そして、皆さんの心の中に芽生えた夏学スピリットを学校の友達に積極的に伝えてください。それが「サイエンスアンバサダー」の使命なのです。文化祭での口頭発表、レポートを作成して各種メディアなどに投稿することも可能でしょう。学校の先生の許可があればポスターを作製して校内に掲示してもらったりも出来るでしょう。もちろん、友達との会話の中で夏学スピリットを語ってもらうのもOKです。そんなこと、私にはできないよ。と、思っているあなた!大丈夫です。夏学プログラムの中には「サイエンスアンバサダーへの道」



▲グループでの話し合いに集中する参加者の皆さん



というトレーニングの場があります。自分の学校で堂々と発表をしている自分の姿を思い描いて、立派なサイエンスアンバサダーと なってください。

また、夏学終了後にはチームメンバーとメールや電話、手紙や年賀状などで連絡を取り合い、大学生になっても友達関係が続いているという参加者も珍しくありません。年齢、地域をこえて一生の友達ができるのも夏学ならではの魅力です。夏学で出会った先生や学生TAたちとも連絡を取り合い、悩み事があるときに相談に乗ってもらっている、という参加者も多くいます。夏学はさまざまな観念に出会い、人に出会い、新しい自分に出会う場なのです。

夏学で 育つ夢

「仲間との出会いが
楽しみです！」

宝仙学園中学校共学部三年生
小川紗織里

夏学では毎年自分自身を再発見するというドラマがあります。そのドラマの主人公はもちろん参加者の皆さんです。今年は何んなドラマが待っているのか、参加者の皆さんはきっとドキドキしていることでしょう。今年初めて夏学に参加する東京の中学生・小川紗織里さんと、そのお父様・小川秀明さんに今の気持ちをお話しました。

私が夏学を知ったのは中学二年生のときです。当時の理科の先生が授業中に夏学のことをお話ししてくださったことをよく覚えています。そして今年の六月に学校内で夏学開催の告知をするポスターを見つけました。とにかく楽しそう！と直感で思いました。そして、私は将来は理系に進学して将来は研究者になりたいと漠然と思っていたため、同じような仲間に出会えるのではないかと、とも思いました。職業選択については多くの本が学校の図書館には並んでいますが、しかし、本などから与えられる一方的な知識だけではなく、理系に進学した大学生の先輩たちや研究者の皆さんと将来の進路について実際に話し合い、私の考えを聞いていただいていた上でアドバイスをいただきたいたとも思っています。また、全国各地の同世代の仲間たちと行動をともにして夢を分かち合いたい、そして何よりも一生の友達をつくりたい、と今夏の夏学に参加することにしました。私は理科が大好きです。先日家族と出かけた博物館では「隕石と太陽系」という企画展を見てきました。そこでではハッブル望遠鏡で

観測されたオリオン星雲が展示されていました。ナビゲーターの方から「ハワイの望遠鏡ではもっと高精度で観測できる」というかがいきました。今回はすばる宇宙望遠鏡をもっと楽しみたいと思っています。そして、宇宙分野の専門家の先生からいろいろな話を聞いてみたいと思っています。夏学の三日間を前にして、正直に言うとも顔も知らない人たちと協力しあえるか、打ち解けられるか、不安もあります。今は単純にワクワクしているだけではありません。楽しみのような、すこしだけ怖いような、複雑な心境です。しかし、夏学には何物にも変えられない「出会い」があるような気がしています。多くの出会いを通して、私自身が大きく成長できている三日間になればいいな、と思っています。

「親として力になれること」

小川秀明さん

娘は理系に進学して職を得たいと考えています。親としてその夢をどうやってバックアップしていくかができるのか、私には不安があります。科学技術の最先端で活躍されている方や大学生の皆さんがどのようにならなれているのか、娘と同じような夢を抱いている全国の皆さんはどのような

思いをもっているのか、親としてどうサポートしてあげたいか、夏学への参加を決めたこと、また、このような機会を与えてくれたことに感謝の気持ちを込めて、次代の女性に力をつけてほしいと願っています。残念ながら私が奉職する会社もいまだに男性社会であることは否めません。今後の女性の活躍に期待をされているのか、どのような育成がベストであるのか、有識者の皆さんとディスカッションしてみたいとも思っています。娘が在学する学校の創立者は「教育は国の基」と言ったそうです。私も子どもは国の宝であると考えています。その子どもたちが夢を持ち、それを現実させていけるように親の世代の使命であると考えています。三日間、よろしくお願いたします。

私たちと夏学を楽しみましょう！

「刺激的な出会いの夏を」
小川順子企画委員長
(日本原子力発電株式会社)

今年も嵐山に出会いの季節が巡ってきました。理系に興味を持っている北海道から沖縄までの参加者のみなさん、触れ合い、話し合い、学び合いの三日間をエンジョイしてください。様々な人生経験を積んだ企画委員、実行委員、学生TAとともに、刺激的な夏をあなたにお届けします。

「将来の夢をアツく語ろう！」
刑部南月子学生企画委員長
(お茶の水女子大学)

参加してくれてどうもありがとう。さあ、理系の世界の広がりと深さを存分に楽しんで下さい！そして一生の友人を、頼れる先輩を見つけて下さい。この夏学であなただけでなく、新しい自分を発見します。思っていた以上の自分の可能性にも気付かず。皆さんと私たちスタッフそれぞれの感動が共鳴しあうこの夏学で、是非ぜひ一緒に、将来の夢をアツく語ろう！



(右) 小川順子企画委員長
(左) 刑部南月子
学生企画委員長

名物実行委員の先生を紹介します！

皆さんの夏学がより楽しく、充実したものになるように裏で汗を流す実行委員の先生たちがいます。ここではそんな「名物実行委員」の一角を紹介します。今日からの三日間、声をかけてみてください。きっと素敵な話を聞くことができるでしょう。



福田公子先生 (首都大学東京准教授：生物)
◆とにかく「カッコいい」という一言に尽きる福田先生。福田先生を慕って、毎年多くの夏学 OG が学生 TA として夏学に戻ってきます。昨年は夏学の企画委員長も務められたことをはじめ、毎年夏学を活気付けている立役者です。今年は主にサイエンスエクスプローラーの実験 K で参加者の皆さんと触れ合いますが、実験 K 以外を選択する皆さんも話しかけてみてください。きっと元気をもらえます！



森 義仁先生 (お茶の水女子大学准教授：化学)
◆ひげをたくわえ、いかにも大学の先生風の厳格な雰囲気のある森先生。しかし、とにかく楽しいことが大好き、人と触れ合うことはもっと好き、という気さくなお人柄なのです。大学ではキャリア指導などにも携わり、多くの学生から信頼を集めています。ユーモアたっぷりの薬学博士である森先生。夏学ではいつも人気者です。



鳥養映子先生 (山梨大学教授：物理)
◆優しい笑顔が素敵な鳥養先生。量子工学のエキスパートであると同時に、この夏学をゼロから立ち上げたバイオニアでもあります。高校生時代は科学への憧れは常に根底にあり、大学進学では、得意な文系に進むか願書を出すまで迷っていたといわれています。まさに進路選択で悩む皆さんの最大の理解者となってくれることでしょう。